



様式第4号（第6条関係）

平成30年10月29日

富士見市議会議長 尾崎 孝好 様

会 派 名 草の根
代 表 今成 優太

行政視察・研修（政務活動）報告書

下記のとおり、行政視察・研修（政務活動）を実施しましたので、報告いたします。

記

- 1 期 間 平成30年10月15日～10月16日（1泊2日）
- 2 参加者名 勝山 祥
- 3 場所（行政視察地・研修場所）
全国市町村国際文化研修所 滋賀県大津市唐崎2-13-1
- 4 調査・研修概要
平成30年度「トップマネジメントセミナー」～未来に向けた挑戦～
（市町村議会議員研修）

【研修1】

「人口減少時代の大都市経営」
神戸市長 久元 喜造氏

神戸市の成り立ちから、いわゆる大都市と近隣市の制度設計上の違い、犯罪発生率が高いことや、産業インフラへの投資、維持費への歳出が多いことなどを具体的に数字を交えて説明を受ける。財政力指数と、住民税の占める割合は相関関係があること、逆に法人税率との相関関係は数字上、関係ないことを示した上で、いかにして多くの人に自治体として選んでいただくか、また市民の所得を増やしていくのが鍵になるとのこと。神戸市には教育力という知名度、

ブランド力があるのでこの点を生かしたプロモーション、また学生に三宮駅などの物足りない点などフィールドワークで課題を出してもらい、改善につなげた事例が紹介された。地域との協働と同様に重要なことは、市役所職員を外に出していくこと、そのために神戸市では「高齢者部分休業制度」や「地域貢献応援制度」を設けて職員の後押しをしている。

講義を終えて感じたことは、外部の目を入れること、また、仕事の内容を精査し、職員の労働内容を見直して住民サービスにつなげる視点であった。

【研修2】

「“いいもの”を編む～気仙沼ニッティングの挑戦～」

株式会社気仙沼ニッティング代表取締役社長 御手洗 瑞子氏

東日本大震災発災後、最初に目につくのは建物、インフラの破壊などであるが、実は人々の生活サイクルが破壊されていることの方が深刻であった。そこで、気仙沼の人の生活を支え、世界に発信できるものとして編み物を選んだ。気仙沼は漁師の街であり、漁網を修繕するなど、編み物が得意な人が多い土地だった。また、世界に発信するものとして値段は高くとも、編むのに平均50～60時間かかることの対価として、ふさわしい値段をつけることにした。オーダーメイドのセーター15万円である。最初の一年間は、コピーライター糸井重里氏の事務所仕事という形で、4着のオーダーメイドを募集したところ、100件近い依頼があり、事業として成り立つことを確信した。

今までの復興支援を受けていた中で、何をやるにも「助かります」「ありがとうございます」と肩身の狭い思いをしていた気仙沼の人にとって、初年度から黒字経営できたことは「納税できる」、やっと胸を張って歩くことができることであった。最初は4人で始めたが今では編み手が70人を超える。多くが介護や、家事をしており、決まった時間に働くというよりは、自分ができる時間に作業し、納品している。

働き方改革という中で、定年を伸ばすということではなく、国の調査では非労働力人口4割と言われる方で、働きたい方への施策が求められているという言葉が、印象的だった。

【研修3】

街全体で人々を看守る新しいまちづくり

～CBMCヘルスケアイノベーションIWAモデル～

京都大学経営管理大学院 特定教授 岩尾 聡士氏

日本人の平均寿命が延びた結果、75歳以上の方が医療、介護を同時に受ける時代が始まっている。75歳以上の方が増えていけば必然的に医療への若年者に掛ける時間が少なくなっていく。同時に医療、介護難民が出てくるかと思われる。人生90年時代に入っているのは先進国で日本のみ。地域包括ケアはヨーロッパのやり方を日本に持ち込んでいるが、日本では看護師資格を持ちながら働いていない潜在的な人数が約70万人いると言われている。この中で働き方を変えて、働ける看護師を増やすことで、今後、地域全体で支えていく仕組みを作ることができる。医療と介護の連携のみならず、医療を理解した介護士、介護を理解した看護師で地域を支えていくことができる。

【研修4】

「知と汗と涙の近大流コミュニケーション戦略」

近畿大学 総務部長 世耕 石弘氏

近畿大学の基本的な広報コンセプトは「真面目に広報する」ことが常識の大学界において、伝えたいことをしっかりと認識し、背骨の持った広報を行うことである。新しいこと、非常識と言われることを続けることで、批判を受けることもある。しかし、しっかりとした背骨があれば気にせず、嫌いな人もいるかもしれないが、他とは違うということを認識してもらえる。そのためには、現状と問題を正しく知ることが重要である。何が足りなくて何をすればいいのかが、分かれば、ブレずに進むだけである。コミュニケーションにおいて大切にしていることは、「伝えた」ではなく「伝わったか」。自分たちにとって素晴らしいことが、他の人も同じように、素晴らしいと感じるかは別だと言う認識を持たなければならない。

【まとめ】

様々な分野で、力を発揮している人物から聞く事は、一つ一つ、説得力のあるものだった。4人の講師から違ったテーマで、講義を受けたが不思議と共通していたことがある。それは、今までのやり方では通用しなくなっていると言う事。人口減少社会に入った事で、全ての事柄が危機に瀕している。その事態に対処するためには、今までとは異なる働き方、システム、発信の仕方が必要という事が、強く理解できた。全てを富士見市に当てはめることは出来ないが、変革、批判を恐れずにしっかりと狙い、考えを持って行動すれば変わってくることを感じた。今後の議会で生かしていきたい。